（四）古典

ア　古典を学ぶ意義

高等学校の古典の授業で扱うのは「古文」と「漢文」である。「古文」とは上代から近世までの我が国の文学作品を指す。また「漢文」とは中国の古典であるが、我が国の古典としても享受されてきた作品を指し、そこには日本人が作った漢文も含まれる。さらに、学習指導要領には、古典分野で扱う教材について「古典に関連する近代以降の文章を含める」ことが明示されている。

現代人にとって、「古文」の授業とは「古典文法」「古文単語」など日常生活とほとんど関わらない分野の学習というイメージが強いだろう。しかし、上代も中古も中世も近世も、先人たちは言葉を用いて生き、それぞれの経験や思いを言葉で残してきた。そのことは今を生きる私たちと何ら変わりはない。つまり「古文」は当時「現代文」だったのである。古典文法や古文単語は、もちろん大切な学習内容であるが、一方で生徒たちには「古文」の作品を楽しく味わわせたい。古人の関心の対象、感性、知恵などを知ることで、かえって新鮮な感覚を得てほしい。文法や単語の学習は読解のための一つの手段にすぎない。

さらに「漢文」の学習については、「古文」以上に抵抗感をもつ生徒も少なくないだろう。漢文は古い時代の、しかも中国の文章で、日本文学からは遠いものに見えるからである。しかし、「古文」の世界に生きた人々が「漢文」を読み、口ずさみながら新しい文物を学んでいったことを考えるとき、「古文」と「漢文」を異質なものとして切り離せないことは自明である。古人が「漢文」を通じて学んださまざまなことが、現代人の精神世界にまで影響を及ぼしていることを思えば、教養として「漢文」を学ぶことの意義は深い。

イ　指導の際の留意点

生徒が中学校において学習する古典は、あらすじや現代語訳、補足説明が添えられた取り組みやすい形になっている。しかし、内容理解の深まりという点では、高等学校から学習が始まると考えた方がよい。

中学校の教科書に取り上げられている主な古文教材には、「竹取物語」「枕草子」「徒然草」「平家物語」「おくのほそ道」「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」などがある。漢文教材では、「論語」「韓非子」や唐詩が取り上げられている。

（ア）教材の精選

入門教材には、現代人にも通じるような感性や考え方、おもしろみのある作品を選び、生徒の興味を喚起したい。また、遊びの感覚から入りやすい百人一首を教材に取り入れるのもよい。

古文においては、古典常識について学んでいなくても理解しやすい作品から学習を始め、徐々に古文に描かれている文物や特徴的な習慣、考え方などを理解させていくとよい。また、作品の時代背景や歴史的意義にも目を向けさせたい。

漢文においては、故事や歴史といった比較的理解しやすい内容から始め、思想などのより抽象的な内容に挑戦させていきたい。また漢詩については、形式や押韻などの表現の特色に注目しながら内容を味わわせたい。その際、漢詩の音声資料などによって、言葉の響

きやリズムを実際に確かめさせるとよい。

（イ）音読の指導

漢字の読み方や文節を意識させるための範読はもちろんのこと、指名読みをさせたり授業内に練習時間をとったりして生徒にも十分に音読をさせ、文章の言い回しやリズムに慣れさせたい。また、有名な古文の冒頭文や漢詩などは暗唱させるとよい。

（ウ）ノート指導

学習内容を整理するため、授業ノートの書き方を学び始めの時期に具体的に説明し、継続的に指導したい。

こまめなノート点検により、生徒の理解度とつまずいている箇所を把握できる。古典に慣れさせるための一手段として、本文を書き写す作業を勧めたい。

また、生徒に効率よくノートを整理させるための工夫も大切である。例えば、古文や漢文の本文をプロジェクター等で映し出しておき、そこに板書のように短時間で見やすく書き込みを行うなど、さまざまな方法を試してみるとよい。

（エ）辞書の活用

古文の授業においては、言葉の単位としての「単語」を意識させ、その一つ一つの意味を押さえながら現代語訳ができるよう、古語辞典を十分に活用させたい。歴史的仮名遣いの学習をする入門期に丁寧にガイダンスを行い、その後も辞書を引く習慣が身に付くよう継続的に指導し、最終的には生徒自身が自主的に調べたい単語を見つけて学習を重ねていく姿勢を養いたい。漢和辞典についても、普段から使っている生徒はあまり多くないと思われるので、授業で漢和辞典を引くような状況を設け、漢文の予習等に活用させたい。

（オ）古典文法・漢文句法の指導

前述の通り、古典文法・漢文句法の学習は古典読解のための一つの手段と捉えられる。生徒には「古典の内容を正しく理解し、楽しんで読むために文法の知識が必要である」と認識させたい。そして、文法の指導を通して言葉に対する意識を高めるとともに、言葉に対する感性を磨かせたい。しかしながら、初学者に対しては、古典文法のテキストを最初から詳細に指導するのではなく、生徒の実態に合わせた指導内容の精選と指導方法の検討が必要であろう。もちろん長期的な指導の見通しをもつことも肝要である。

（カ）古典常識の指導

扱う教材によっては、服装・暦・官職などの古典常識について学ぶことが必要となる。資料集や古語辞典の付録の絵、図などを使って生徒の興味を引き出し、理解させたい。

古典常識については難読語もあるため、読みの学習と捉えて学ばせることもできる。

コラム⑭【百人一首から創作を！】

和歌は難しい。和歌が少し分かりやすく感じられるのは、例えば「伊勢物語」の授業で、登場人物の心情とともに歌われたものを解釈するときだろうか。あるいは、現代短歌の授業をおもしろいと感じた後に、ふたたび和歌に触れたときだろうか。いずれにせよ、誰かに読み方を教えてもらわなければ、なかなか理解しにくいものである。生徒たちの大半は、きっと和歌は読みにくい、難しい、苦手、と思っているだろう。そんな彼らに、和歌は感情のほとばしりであり、自分たちも気持ちを共有できるという体験をさせることができたら、どんなにかすばらしいだろう。

百人一首に「明けぬれば暮るるものとは知りながらなほうらめしき朝ぼらけかな」という歌がある（第五十二番）。高校一年で習う文法でも十分解釈は可能だ。「夜が明けると日が暮れるものだとは分かっているが、それでもやはり恨めしい夜明け方であることよ」口語訳まではすぐできる。さて、そこから生徒に質問をしてみよう。「どうして恨めしい？」「朝がくるのが嫌だから」「どうして朝が嫌なの？」「起きたくないから」「うーん…どうして起きたくないの？」「学校行きたくないんじゃない？」「……」ここまでのことはないにせよ、なかなか本当の意味にはたどりつけないことだろう。古典の得意な生徒が、「恋人と別れて会えなくなるのが悲しいから」と答えたとしても、それをすぐに正解としない方がいい。彼（彼女）がちらりと知識を見せて、「通い婚だから、朝別れるんじゃないですか」と言ったら、「今晩また会えるのにどうして悲しいの？」と、更に問いかけてみよう。どんな答えが返ってくるだろうか。

「明けぬれば暮るるものとは知りながら」、つまり「今晩会える確約があってさえ」あなたといられないのがつらいのです、というところまで読み取れたとき、生徒の人生経験はうんと豊かになったことにならないだろうか。もちろん高校生に「後朝（きぬぎぬ）」を問うわけにはいかないが、その心情は現代に生きる生徒たちにも十分理解できるものだと思う。そこまで理解した生徒に、現代語訳をベースとした創作を自由にさせてみよう。グループをつくって取り組ませると、あれやこれや言い合って楽しみながら予想以上におもしろい作品が生まれることもある。もちろん一人で詩や小説を書き出す者はそれでよい。国語の授業であれば言葉による表現が望ましいが、得意な生徒がいればイラストで表現させてみてもよいと思う。

どんな和歌を使うかという悩ましさはあるが、マンガでも百人一首の解説が出ているので、教材研究の参考書はかなりあると思う。

◆参考資料◆　佐佐木幸綱『口語訳詩で味わう百人一首』さ・え・ら書房　二〇〇三年
吉海直人監修『マンガで読む百人一首』学研教育出版　二〇一三年

資料７

国語科（国語総合）学習指導案　　指導者　＊＊　＊＊　印

一　日　時　　平成＊年＊月＊日（＊曜日）　第＊時間目（50分）
二　学　級　　第一学年＊組　＊名
三　単元名　　平安朝の物語文学に親しみ、古文の世界への関心を深めよう
四　単元の目標
（1）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）
（2）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。（読む能力）（「C読むこと」（1）のウ）
（3）文語のきまりなどを理解する。（知識・理解）（〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（1）のアの（イ））
五　取り上げる言語活動と教材
（1）言語活動
文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。（読む能力）（C「読むこと」（2）のア）
（2）教材　「伊勢物語」第二十三段〈筒井筒〉（『国語総合』＊＊出版）
六　単元の具体的な評価規準
（1）登場人物の言動や置かれている状況を把握し、それぞれの心情を想像して読み味わおうとしている。（関心・意欲・態度）
（2）登場人物の言動や置かれている状況を把握し、それぞれの心情を想像して読み味わっている。（読む能力）
（3）歴史的仮名遣いのきまりや文語文法など、古文特有のきまりを理解し、読解に生かしている。（知識・理解）
七　指導観
（1）単元観
古文の学習段階の初期にある生徒が、物語に親しみ、古文の世界への関心を深めるために、文法等の知識をさほど必要とせず、少数の登場人物により物語が展開していく作品を取り上げ、登場人物の心情を深く読み味わう学習を設定したい。
（2）学習者観
現時点の生徒の興味・関心は、言葉の表面的な意味を理解する段階にとどまっている。本来、感受性の豊かな生徒たちであるので、できるだけ初期の段階で、古文の時代の人々も、現代に通ずる精神世界をもち、さまざまな感情を抱えながら生きていたことを実感させたい。
（3）教材観
歌物語はそれほど登場人物が多くなく、敬語等の少ない章段を選択すれば、古典を学び始めたばかりの生徒でも、描かれた心情世界に踏み込むことができる。また、和歌のもつ意味の深さ・大きさを実感させるのにも適している。その中でも、「伊勢物語」の「筒井筒」は登場人物の行動や歌に込められた心情を読み取らせるのに適切な教材である。
八　単元の指導計画（配当時間６時間）

次 時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次	・「伊勢物語」及び平安朝の物語について文学史上の意義を知る。 ・「筒井筒」の本文の読み方や単語の意味を確認する。 ・第一段～第三段の内容を把握する。	・教科書や資料集を使って、文学史上の意義や位置付けなどを確認させる。 ・本文を読ませ（一斉読み・指名読み）、古文の文体に親しませる。 ・意味の分からない単語を見つけ出させ調べさせる。 ・適宜区切りながら口語訳させる。	◇評価規準、◆評価方法、＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて ◇（2）（3） ◆記述の確認（ノート）

資料７

4時間	・和歌の修辞法を学び、それぞれの和歌を解釈する。 ・物語の展開上それぞれの和歌が果たす役割を確認し、そこから「歌物語」というジャンルを理解する。 ・当時の結婚形態について知識を得る。		
第２次 ２時間	・「筒井筒」と「くらべこし」の和歌がどんな意思表示になっているかを考えさせ、結婚までの経緯を把握させる。 ・夫の心変わりと、「風吹けば」の和歌を詠んだ女の態度についてまとめさせる。 ・「君があたり」の和歌から、高安の女の心情を考えさせる。	・現代語訳から登場人物の状況・心情を踏まえ、本文にない場面を創作として加え、読みを深める。 ・第一段落～第三段落のいずれかを選ばせ、具体的な状況が述べられていない場面について、現代語でエピソードを創作させる。 ・数人ずつの班に分けてそれぞれの作品の中から代表作を選ばせ、発表させる。	◇（１） ◆行動の観察 ◆記述の確認 （ワークシートⅡ） ＊迷っている生徒には、男・女・高安の女の誰に最も心ひかれたか問いかけ、その人物を主人公に据えた破綻のないあらすじをつくるよう助言する。 ◇（２） ◆記述の分析 （ワークシートⅠ・Ⅱ）

九　本時の目標
本文にない場面を創作し現代語訳に加える作業を通じ、登場人物それぞれの心情を更に読み味わう。（読む能力）

十　本時の評価規準
現代語訳に、創作したエピソードを加える活動を通じ、登場人物それぞれの心情を想像しながら、読みを深めている。（読む能力）

十一　本時の指導（全６時間中の５時間目）

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 （５分）	・本時の学習内容を知る。	①本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基に、本時の目標を示す。 ・登場人物の心理状態を考え、各段に合わせたエピソードを創作することを説明する。 ・班のメンバーはあらかじめ指定しておく。
展開 （40分）	・創作を通して作品の読みを深める。	②ワークシートⅠを使い、次の三つのテーマのうち興味の湧いた段落を各自選ぶ。 ［場面Ａ］第一段 井戸の近くで遊んでいた二人が和歌を交わし合うようになるまでのいきさつ。	②ワークシートⅠを使って各段落のあらすじを再度たどらせ、内容理解を深めた上で書かせる。

資料７

十二　御高評

			［場面Ｂ］第二段 女の親が亡くなって男が高安に通うようになるまでのいきさつ。 ［場面Ｃ］第三段 突然通って来なくなった男を待ち続ける高安の女の暮らし。
	③挿入する話のあらすじを考える。 ④創作する。（約20分間） ⑤班内で回し読みし、それぞれの長所を指摘し合った上で代表作を一つ選ぶ。	③机間指導し、取組の状況を把握する。 ④字数制限を短めに設定し、時間をかけさせないようにする。 ◆行動の観察 ⑤ワークシートⅡを使ってそれぞれの作品の長所を必ず一つは指摘させるようにする。 ◆記述の分析 （ワークシートⅠ・Ⅱ）	
終結 （5分）	⑥次時の目標と言語活動について確認する。	⑥評価の観点を基に、次時の目標を示す。	・次時の内容を知る。

資料７

ワークシートⅠ

「伊勢物語」〈筒井筒〉〝お話を膨らませる〟プリント

一年　　組　　番　氏名

①〈筒井筒〉の本文を見て、口語訳を思い出そう。

②傍線部Ａ～Ｃのいずれかの部分を選び、〈筒井筒〉の話の内容を自由に膨らませてみよう。

一

A

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、

大人になりにければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでなむありける。

さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけしまろが丈過ぎにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき

など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

B

二

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろともに言ふかひなくてあらむやはとて、河内の国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。

さりけれど、このもとの女、あしと思へるけしきもなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるにやあらむと、思ひ疑ひて、前栽の中に隠れゐて、河内へいぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

とよみけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

三

まれまれかの高安に来てみれば、初めこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、笥子のうつはものに盛りけるを見て、

C

心うがりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつををらむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも

と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る

と言ひけれど、男住まずなりにけり。

場面（　　）

資料７

ワークシートⅡ

一年　組　番　氏名

あなたの班は　　班

あなたの班の作品は

	例	1	2	3	4	5	6
№							
班員名	＊＊　＊＊						
選んだ場面	A						
選んだ作品に○	○						
作品の長所と感想	##########。						

あなたの班の選んだ作品は

No	
作者名	
場面	
選んだ理由・作品の長所	

資料８

国語科（国語総合）学習指導案

指導者　＊＊　＊＊　印

一　日　時　　平成＊年＊月＊日（＊曜日）　第＊時間目（50分）

二　学　級　　第一学年＊組（＊名）

三　単元名　　漢文訓読の知識を用いてまとまった文章を読み、書き手の意図を理解しよう。

四　単元の目標

（1）文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりしようとする。（関心・意欲・態度）

（2）文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりする。（読む能力）（「C読むこと」（1）のエ）

（3）訓読のきまりなどを理解する。（知識・理解）（〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（1）のアの（イ））

五　取り上げる言語活動と教材

（1）言語活動

さまざまな文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。（「C読むこと」（2）のエ）

（2）教材「漁夫之利」「狐借虎威」「守株」（『国語総合』＊＊出版）

六　単元の具体的な評価規準

（1）寓話を用いた論説の巧みさを考えるとともに、作品を通して伝えたかった書き手の意図を読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度）

（2）寓話を用いた論説の巧みさを考えるとともに、作品を通して伝えたかった書き手の意図を読み取っている。（読む能力）

（3）返り点や送り仮名など、漢文特有のきまりを理解し、読解に生かしている。（知識・理解）

七　指導観

（1）単元観

返り点など漢文のきまりについても指導をするが、入門期であるので、漢文の表現のおもしろさに気付かせ、興味をもたせることを学習の中心としたい。

（2）生徒観

国語力、特に古典を読む力については自信のない生徒が多いが、指導者の話を素直に聞くことができるので、内容に興味をもたせ、苦手意識を払拭させたい。

（3）教材観

親しみのある故事成語の成り立ちに関わる小話なので、生徒に関心をもたせやすい。

八　単元の指導計画（配当時間４時間）

次 時間	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第１次 ３時間	・「漁夫之利」「狐借虎威」「守株」の本文の読み方や単語の意味、句法を確認する。 ・「漁夫之利」「狐借虎威」「守株」の内容をそれぞれ把握する。	・繰り返し本文を音読（一斉読み・指名読み）させることにより、漢文のリズムに親しませる。 ・漢文読解に必要な句法や語法を説明し習得させる。 ・「漁夫之利」「狐借虎威」「守株」の故事成語としての意味を調べさせ、どのような故事から導かれたものか興味をもたせる。 ・教科書の脚注を参考に口語訳させる。	◇（３） ◆記述の確認 （ノート） ＊取組が不十分な生徒に対して、ノートの添削指導や助言等を行う。

資料８

第２次 １時間	・「漁夫之利」における「鷸」「蚌」「漁者」、「狐借虎威」における「百獣」「虎」「狐」、「守株」における「宋人」の行動が、それぞれ何をたとえたものかを確認する。 ・各話の書き手が、寓話を用いてどのようなメッセージを発しているかを読み取る。	・班単位で活動させる。 ・各話において、書き手が寓話を巧みに用い、自分の主張に説得力をもたせていることに気付かせる。 ・中国の戦国時代に、巧みな弁舌で持論を展開した遊説家や思想家がいたことを認識させる。	◇（１）（２） ◆記述の確認 （ワークシート） ＊取組が不十分な生徒にはノート提出を求め、再度ワークシートに取り組ませる。

九　本時の目標

動物や人物がたとえているものを把握し、論の展開方法を読み比べ、味わう。（読む能力）

十　本時の評価規準

動物や人物がたとえているものを把握し、論の展開方法を読み比べ、味わっている。（読む能力）

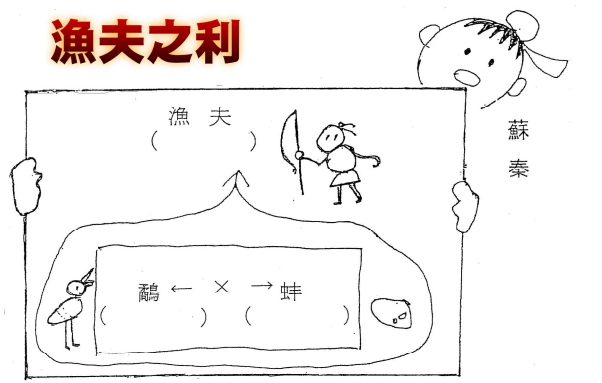
十一　本時（全４時間中の４時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 （5分）	・本時の学習内容を知り、班活動の準備をする。	①本時の目標と言語活動について確認する。	①評価の観点を基に本時の目標を示す。 ・相手を説得するための話の組み立て方の巧みさに気付かせる。 ・班のメンバーはあらかじめ決めておく。
展開 （35分）	・各文章を要約し、たとえを指摘し、その論説の巧みさを知る。	②班ごとに、ワークシートを見ながら口頭で各話を要約し、それぞれのたとえについて話し合う。 ［漁夫之利］ 鷸・蚌・漁者 ［狐借虎威］ 百獣・虎・狐 ［守株］宋人の行動 ③寓話によって表されている教訓や思想を確認し、文章にまとめる。	②口語訳を参考に、ワークシートを使って班で確認させる。 ③脚注により中国の戦国時代の政治情勢等を確認させ、各話について、各自ワークシートにまとめさせる。
終結 （10分）	・本時の学習内容を振り返る。	④たとえの効果と三編の論理展開の巧みさについて班で話し合い、まとめる。	④たとえの効果を班で話し合わせ、ワークシートにまとめさせる。 ・ワークシートを回収する。 ◆「記述の確認」　ワークシート

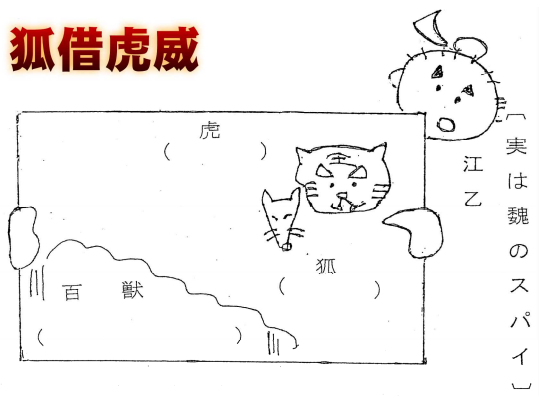
十二　御高評

資料８

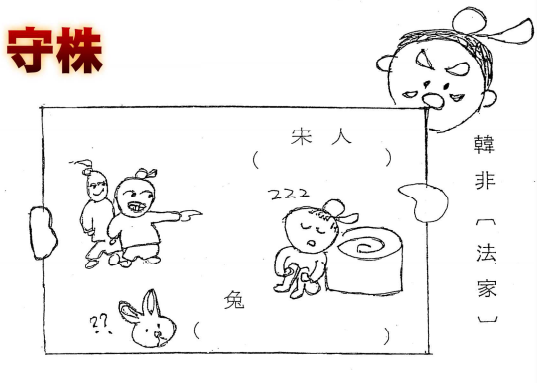
漢文「故事三編」ワークシート　　一年　　組　　番　氏名



書き手が伝えたかったことは？



書き手が伝えたかったことは？



書き手が伝えたかったことは？

○たとえ話を使うと、書き手の意図が読み手に伝わりやすくなるのはなぜか。班で話し合い、分かったことを記そう。